


第 107 回目の GIS News! です

朝夕のそよそよと吹く涼風に秋の気配を感じる季節になりました。梅雨明けからの猛暑は稲作にとって吉となり、庄内では今年も例年並みの作柄が期待できそうです。米がよく育つための気象条件は何と言っても暑いこと、「日照りに不向き」という言葉がありますが、熱帯性の植物である稲は、炎天下で過ごすのが大好きなようです。さて、今回は「農業GISが体験できる」という話題です。

庄内支場「参観デー」でGISが体験できる

山形県農業総合研究センター農業生産技術試験場庄内支場は、数々の水稲品種（はえぬき、どまんなか）を育成し、小学校の教科書にも取り上げられている試験場です。生産者、消費者、学校で米づくりを学んでいる小学生の皆さんに施設を公開する参観デーで「これからの農業GIS」が体験できます。

- ・開催日時：9月2日（土）9時～16時
- ・場 所：鶴岡市藤島字山ノ前25（ペロリン  の旗が目印）
- ・GIS 説明：11時～12時（農業GISの体験は12時から）

新品種試食コーナーや米・大豆を使った加工品販売コーナーもあり、農業GISを体験しながら庄内支場で1日楽しめます。詳細は下記のサイトをご覧ください。

やまがたアグリネット：<http://agrin.jp/cgi/guest/page.cgi?id=4842>

GISを利用してほ場情報を管理しよう

平成19年から本格的にスタートする経営所得安定対策により集落営農（※1）が進むと、機械作業に従事する人は自作地以外での作業が増えると考えられます。このような時、GISを利用してほ場の情報を知ることができれば便利です。現在、集落営農での計画策定、作業記録、経理システムなど多方面でのGISの利用が検討されています。下記作業の①と②については、既に酒田市広野地区で実用化されました。現場サイドでどのようにGISを利用すれば効率よく作業できるか、農業GISの試験運用がスタートします。

- ①地図と共済台帳（水稲生産実施計画及び営農計画書）マッチング
生産調整確認作業（転作確認）のマップ作成
- ②防除計画書から防除区分（4回、減減、大豆等）マップの作成
- ③防除作業記録からほ場ごとのトレーサビリティ帳票の作成
- ④防除作業記録から請求書作成等経理システムへの連動処理
- ⑤無人ヘリデータコレクタのデータをGISに取り込みして作業内容の確認

※1）集落を単位として生産行程の全部又は一部について共同で取り組む組織

<http://www.maff.go.jp/ninaite/menu3.htm>

参考文献：山形県農業総合研究センター 小田九二夫「農業GISはこんなに便利だ」

次回の GIS News!

今回は、2006年9月11日発行予定です。よろしくお付き合いください！

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 佐藤まゆみ 発行日：2006年8月22日



お米の花の命は短く
約2時間でしぼみます。

